

# 久山中便り

久山中学校

令和7年12月24日発行

第64号

## 二期の総括

### 終業式

終業式では、各学年と生徒会の代表者が、二期の総括や今後の見通しについて、意見を発表しました。抜粋して紹介します。

宿泊体験では、目標であった「自律」が身についたと思います。時間を守って行動することや、班での活動など自分たちで考えて行動しなければならぬことが多くありました。だからこそ、みんなで声を掛け合い、互いにフォローしながら「自分の責任として行動する」という自律する力、協力する姿勢や責任感が高まったと思います。【一年生Yさん】

修学旅行では、相手の目を見て挨拶すること、周りを見て協力すること、人より良くなかろうことを目標に行動しました。班別自主研修では、教科書や資料集でしか見たことがなかった建築物や美術品などを見て実物の迫力に驚きました。仲間と寝食を共にしたことを通して、今まで以上に絆を深めることができました。もうすぐ三年生になるので、リ

ーダー学年として、ふさわしい姿になれるよう頑張ります。【二年生Aさん】

冬に近づくにつれ、昼休みに勉強している人も増え、受験に向けての意識が学年全体で高まったような気がします。二期を振り返ると、文化発表会では、各級が切磋琢磨し最高の行事にすることができました。冬休み直前の今、待ち受けるのは受験となります。つい気が抜けてしまいがちな年末もしっかりと入試のための学習に取り組み、悔いの残らないような休みとなるようにしたいです。【三年生Eさん】

今までの私は過程よりも結果が大事だと考えていました。もちろん結果は大事で、うまくいかなかったときの悔しさはありますが、何度も練習を重ねて一人一人が目標に向かって協力し、成長できたこと。それが大切なものだと感じています。この成長したこと、できたことを忘れずに三期も引き続き頑張ります。【生徒会役員Iさん】

二期はそれぞれの学年の締めくくりの期間。有終の美を飾れるよう「結果」を大切にしつつ、「過程」での取り組みを充実させてくれることを期待しています。

### 心を込めた挨拶を

年末年始は、年賀状（今は少なくなってきましたが）をはじめ、親族の集まりなどで挨拶をする機会が増えます。そこで、終業式

では、挨拶についてお話をしました。

ある会議に参加した際に、年配の方が、行動や言動を他者に働きかけるときには、「心を込めること」が大切だとおっしゃいました。

例えば、来客がいらっしゃったときに、履き物を準備して並べておくだけなのか、それとも、心を込めて揃えておくのか。その揃え方の状態をみただけで、真に心を込めたおもてなしかどうか、分かれるとのこと。

学校の中でも、そんな様子を感じる場面に出会います。部活動の練習にきているバレーボール部の部員たちが、体育館の入口に下靴をきれいに揃えて練習に臨んでいます。それを見ると、こちらにも爽やかになると同時に、なんだか嬉しい気持ちになります。

挨拶も同じことが言えます。

最近、みんな気付けてくれて嬉しいのですが、寒い朝にもポケットから手を出して挨拶してくれます。そんな些細な仕草をするだけで、こちらも嬉しくなります。

また、声を出して、私より先に挨拶してくれる人もいます。自分から先に、それも、笑顔の挨拶は、心が込められているなど感じますし、私の心も笑顔になります。

年末年始は挨拶の機会が増えます。心を込めた挨拶で、相手の気持ちを笑顔にしてほしいと思います。

始業式は、一月八日（木）です。

新年に、また元気に再会しましょう。